CASBEE静岡 ふじっぴー

CASBEE建築(新築)2021年版 対応

欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要

建物名称	産原運送有限会社　超低温冷蔵倉庫　新築工事	BEE	1	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点※/満点		取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.5	/5		ふつう
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.9	/5		がんばろう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.5	/5		ふつう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.8	/5		がんばろう

※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)

評価　凡例	よい	ふつう	がんばろう
	4点以上	3点以上	3点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。

		内訳対応項目					
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点					3.5
	■室内環境対策　(①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④主要な用途上位2種にB以上を使用しEIは不使用である。 ④受水槽(ステンレス)の更新必要間隔は30年である。	Q-1	2	2.1	2.1.2	①	外皮性能
		Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備
				3.2	3.2.1	③	昼光制御
		Q-2	2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数
					2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔
					2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔
					2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔
					2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔
					2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔
	■室外環境(敷地内)対策　(⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)	Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出
			3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上
	■エネルギー対策　(⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨BEI=0.63	LR-1	1			⑦	建物外皮の熱負荷抑制
			2			⑧	自然エネルギー利用
			3			⑨	設備システムの高効率化
			4	4.1		⑩	モニタリング
				4.2		⑩	運用管理体制
	■資源・マテリアル対策　(⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水コマに加えて省水型機器(節水型便器)を用いている。	LR-2	1	1.1		⑪	節水
				1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無
					1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無
			2	2.1		⑫	材料使用量の削減
				2.2		⑫	既存建築躯体等の継続使用
				2.3		⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用
				2.4		⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用
				2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材
				2.6		⑫	部材の再利用可能性向上への取組み
			3	3.1		⑬	有害物質を含まない材料の使用
				3.2	3.2.1	⑬	消火剤
					3.2.2	⑬	断熱材
					3.2.3	⑬	冷媒
	■敷地外環境対策　(⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮夏季の風向に対して建築物の見付面積を38%にし、面積を小さくするよう努めている。	LR-3	1			⑭	地球温暖化への配慮
			2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点					2.9
	■サービス性能対策　(⑯耐震・免震/⑰信頼性)	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性
					2.1.2	⑯	免震・制振性能
				2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備
					2.4.2	⑰	給排水・衛生設備
					2.4.3	⑰	電気設備
					2.4.4	⑰	機械・配管支持方法
					2.4.5	⑰	通信・情報設備
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点					3.5
	■サービス性能対策　(⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳各階高は6m以上である。	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画
			3	3.1	3.1.1	⑳	階高のゆとり
					3.1.2	⑳	空間の形状・自由さ
	■室外環境(敷地内)対策　(㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑庇を設けている・視線を遮らず防犯性に配慮している。	Q-3	3	3.1		㉑	地域性への配慮、快適性の向上
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点					2.8
	■室外環境(敷地内)対策　(⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上)	Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出
			2			㉒	まちなみ景観への配慮
			3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上
	■敷地外環境対策　(⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮夏季の風向に対して建築物の見付面積を38%にし、面積を小さくするよう努めている。	LR-2	2	2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材
		LR-3	2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善

CASBEE®-建築(新築)　評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版　|使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.5)

1-1 建物概要

建物名称	庵原運送有限会社　超低温冷蔵倉庫	階数	地上2F
建設地	静岡県榛原郡吉田町川尻字西之宮	構造	S造
用途地域	都市計画区域、法第22条区域	平均居住人員	13　人
地域区分	7地域	年間使用時間	2,340　時間/年（想定値）
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年1月　予定	評価の実施日	2026年9月16日
敷地面積	8,328 ㎡	作成者	飯塚 和三
建築面積	3,294 ㎡	確認日	
延床面積	3,608 ㎡	確認者	

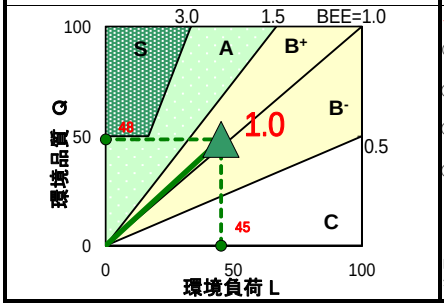
1-2 外観



2-1 建築物の環境効率（BEEランク&チャート）

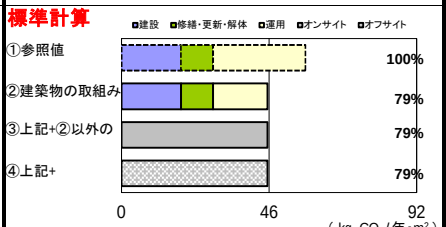
BEE =1.0

S: ★★★★★　A: ★★★★　B+: ★★★　B-: ★★　C: ★



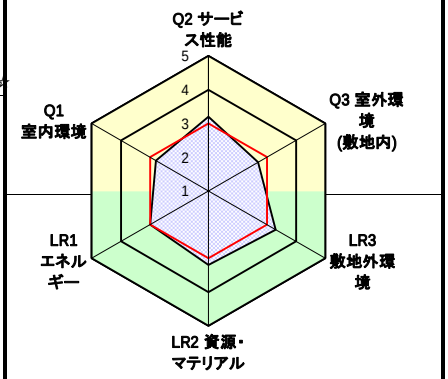
2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆☆　60%: ☆☆☆☆　80%: ☆☆☆　100%: ☆☆　100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

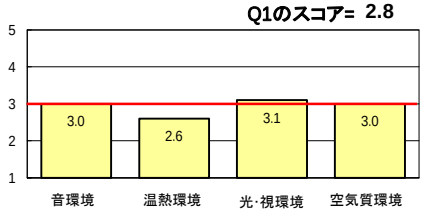
2-3 大項目の評価（レーダーチャート）



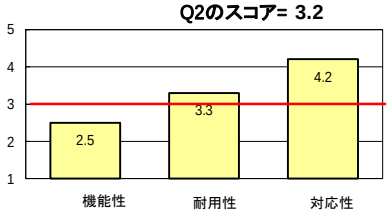
2-4 中項目の評価（バーチャート）

Q 環境品質　　Q のスコア= 2.9

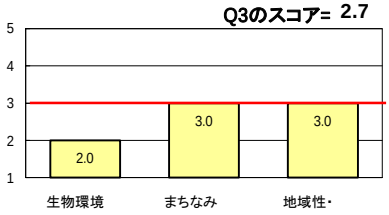
Q1 室内環境　Q1のスコア= 2.8



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.2

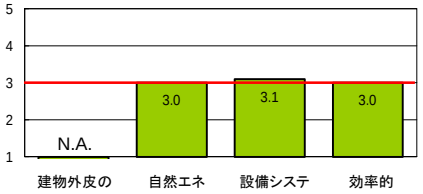


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 2.7

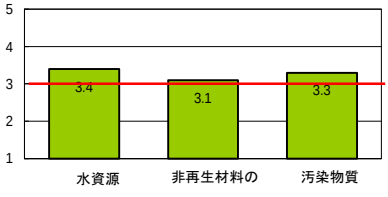


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.1

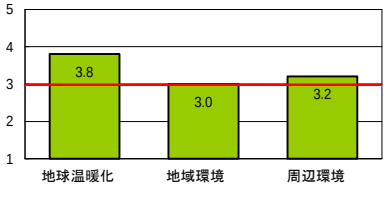
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 3.0



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.2



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.3



3 設計上の配慮事項

総合

これはCASBEE静岡（2021年版）による評価結果である。

その他

0

Q1 室内環境

対象外である。

Q2 サービス性能

GL鋼板の耐用年数は30年である。
受水槽(ステンレス)の更新必要間隔は30年である。
各階高は6m以上である。
1階の壁長さ比率0.08であり空間にゆとりを持たせた。

Q3 室外環境（敷地内）

庇を設けており、且つ視線を遮らず防犯性に配慮している。

LR1 エネルギー

BEI=0.59

LR2 資源・マテリアル

S造のため解体が容易である。
節水コマに加えて省水型機器（節水型便器）を用いている。

LR3 敷地外環境

夏季の風向に対して建築物の見付面積を38%にし、面積を小さくするよう努めている。
光害対策ガイドラインの過半を満たし広告物照明を行っていない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される